

令和7年度 三原市スマート農業支援事業 代かき同時播種 実地検証

1. 移植と直播
2. 代かき同時播種とは
3. 実地検証
4. 検証結果
5. まとめ



三原市経済部 農林水産課

1. 移植と直播

(2)

直播とは、直接、田んぼに播種する(種をまく)こと



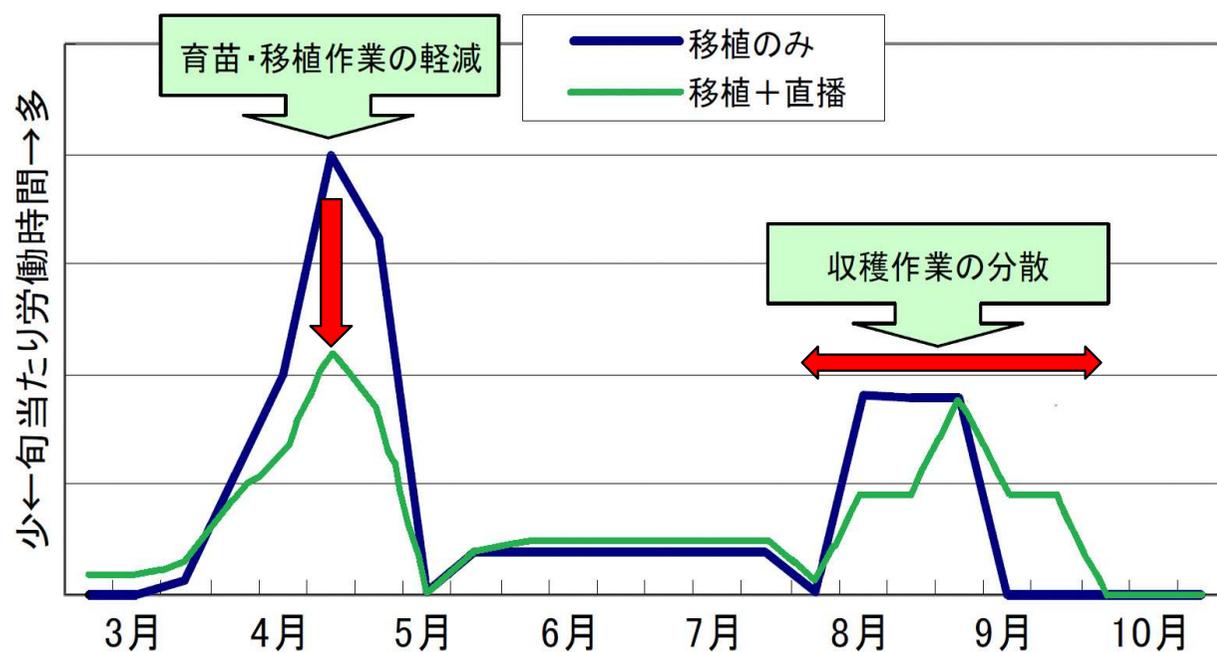
大きな意味

単なる省力化ではなく

水稻経営者を悩ます

春作業のピーク問題

を改善



(農林水産省生産局農産振興課 水稻直播栽培の現状について 平成20年3月)

1. 移植と直播

(3)

【移植の場合】

- ① 苗箱搬出・運搬
- ② 苗箱並べ
- ③ 苗搭載
- ④ 田植



【移植】

苗箱の重さ・・・約7kg／箱

1ha当たり約180箱→約1,260kg／ha

重労働



【直播】

必要な種籾・・・約40kg／ha

直播で軽労化を実現

1. 移植と直播

直播で重要なこと(令和4~6年度ドローン直播実地検証結果より)

○圃場の均平化

【均平化が不十分だった場合】

・水がたまっている部分では種粃が水没

→酸素不足により**発芽不良** → **収量減**

○細やかな水管理

【水管理が不十分だった場合】

・**鳥害**が深刻になる → **収量減**

・**雑草**が増える → **収量減**

2. 代かき同時播種とは

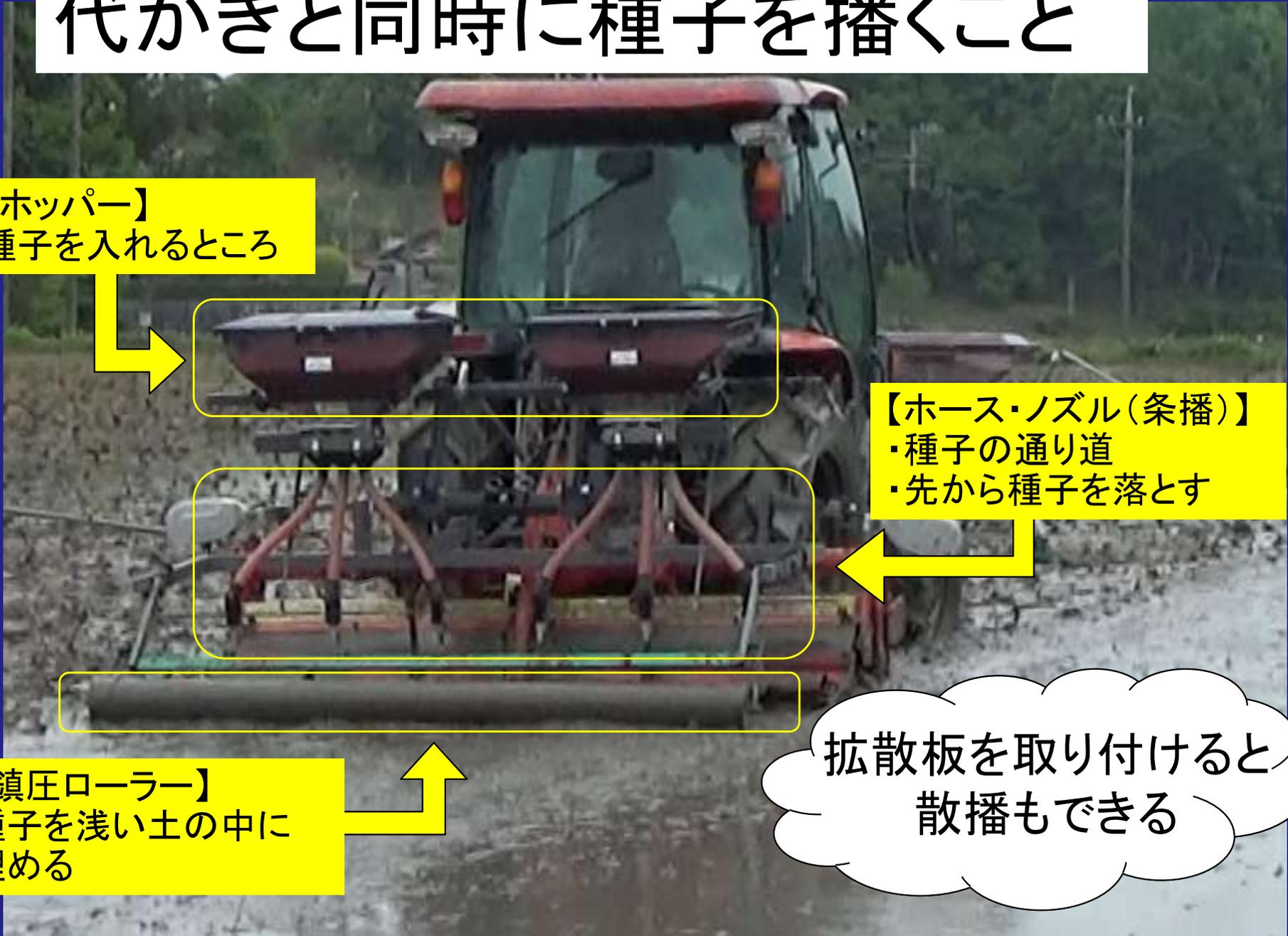
代かきと同時に種子を播くこと

【ホッパー】
種子を入れるところ

【ホース・ノズル(条播)】
・種子の通り道
・先から種子を落とす

【鎮圧ローラー】
種子を浅い土の中に
埋める

拡散板を取り付けると
散播もできる



3. 実地検証(5月9日)

○圃場 東広島市西条町
○協力 (農)郷曾

(6)

品種: あきさかり

コーティング種子
(病害虫予防・鳥害予防)
+
マイコス菌
(菌糸を伸ばし養分を吸収)



混ぜる

3. 実地検証(5月9日)

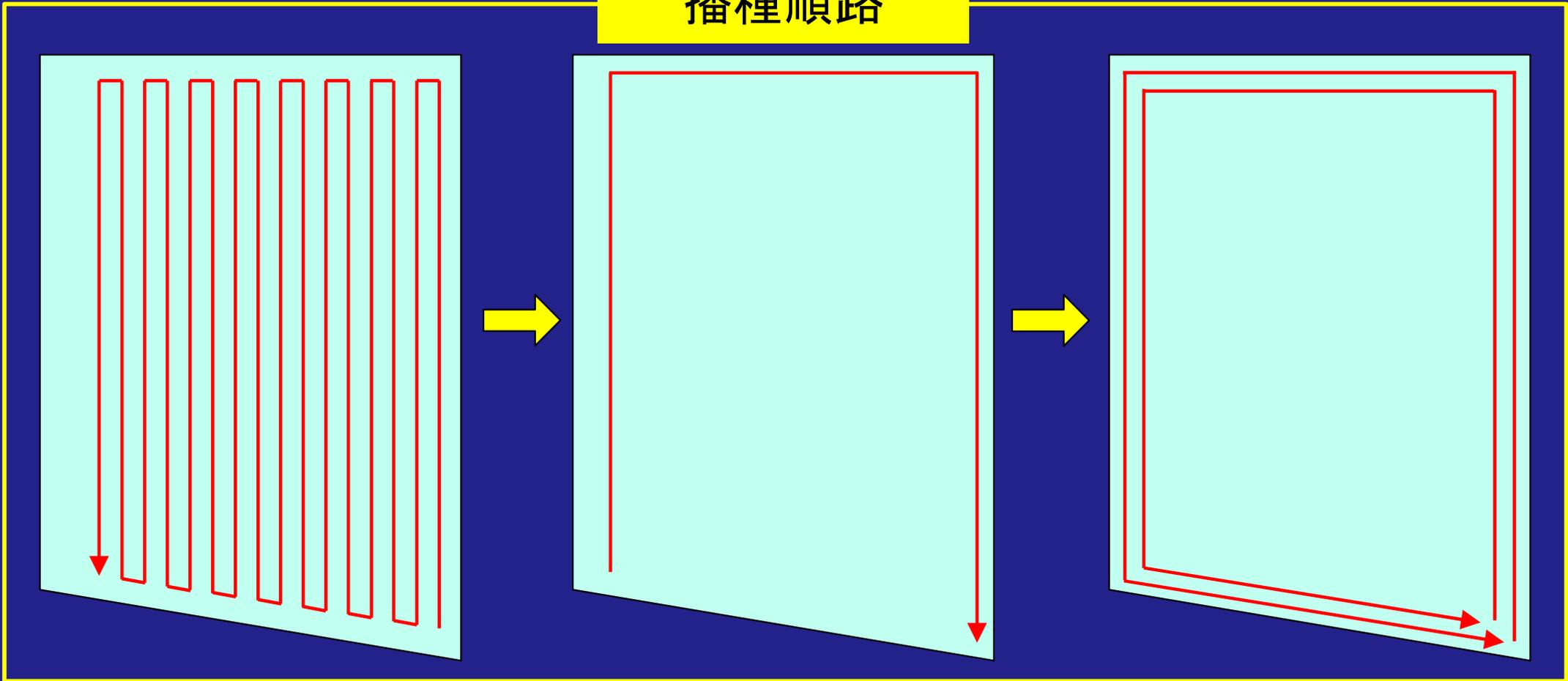
○圃場 東広島市西条町
○協力 (農)郷曾

(7)

品種	あきさかり
播種方法	条播(6条)
面積	約25a
播種量	4kg/10a

荒代かきは
3~4日前に実施

播種順路



3. 実地検証(5月9日)

○圃場 東広島市西条町
○協力 (農)郷曾

(8)



品種	あきさかり
播種方法	条播(6条)
面積	約25a
播種量	4kg/10a

かかった時間
64分(肥料補充時間含む)

3. 実地検証(5月9日)

○圃場 東広島市西条町
○協力 (農)郷曾

(9)

(農)郷曾への聞き取り

- 約20haのうち1割くらいが直播。
- 2日間で直播を行う。
- 移植と比べたときに追加で行っている作業は、**3葉になったらすぐに除草を1回行うこと。**
- 水が十分にあるところ**で直播している。
- ドローン直播もしたことがあるが**条播できる方が収量が良い**と感じる。
- 「あきさかり」と「恋の予感」を直播している。

4. 検証結果

1haあたりの経費

○圃場 東広島市西条町
○協力 (農)郷曾

(10)

	移植	代かき同時播種
苗代・種籾代	154,400円	(コーティング薬剤費込)72,800円
代かき人件費	4,800円	9,600円
追加機械代 ※催芽機、コンクリートミキサー、代かき同時播種機、肥料散布機		(年間1ha実施)244,000円
		(年間2ha実施)122,000円
		(年間5ha実施)48,800円
播種後除草		26,200円
田植	83,100円	
合計	242,300円	(年間1ha実施)352,600円
		(年間2ha実施)230,600円
		(年間5ha実施)157,400円

(経費)

(年間1ha実施)110,300円/ha増

(年間2ha実施)11,700円/ha減

(年間5ha実施)84,900円/ha減

損益分岐

(必要収量)

(年間1ha実施)278kg/ha増

(年間2ha実施) 29kg/ha減

(年間5ha実施)212kg/ha減

※米単価=400円/kg

1haあたりの収量(あきさかり)

移植	代かき同時播種
5,800kg	3,000kg

○例年は、移植と代かき同時播種はほぼ同等の収量

○令和7年は代かき同時播種の「あきさかり」の収量は減少
→紋枯病の影響?

○「恋の予感」の代かき同時播種の令和7年の収量は約5,500kg/ha

5. まとめ

代かき同時播種は・・・

- 育苗不要・田植不要 → 軽労化
- 防除のタイミングを逃さないことが重要 → 収量確保
- 小さい面積ではコストアップ → 面積確保が必要
- 圃場の均平化・細やかな水管理が必要 → 収量確保

※圃場の均平化は、冬期に乾いた田でレベラーを用いて行う(2~3年に1回)

米価が高い時は収量を減らさない・増やすことを優先するべきだが、高齡化等により、軽労化が急務の場合は、有効な技術

